

第1章 基本計画の策定の目的 — (51)

第2章 計画の構成と期間 — (51)

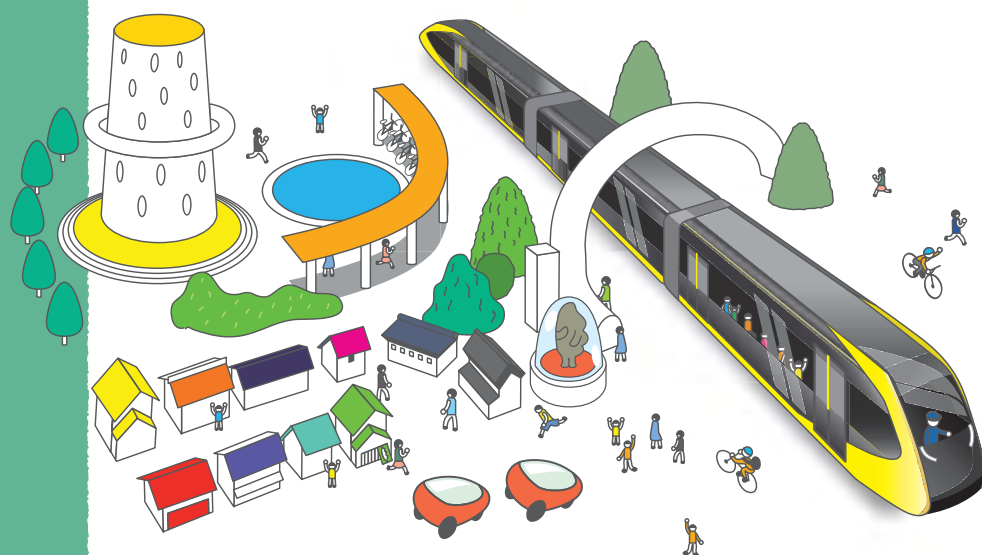
第3章 計画のフレーム — (55)

第4章 都市空間形成の基本方針 — (69)

第5章 まちづくり好循環プロジェクト — (75)

第6章 分野別計画 — (85)

第7章 計画の着実な推進に向けて — (183)



第5章 まちづくり好循環プロジェクト

Project ①

輝く人の和「NCCが支える共生社会創出」プロジェクト

Project ②

つながるまちの環「ICTで暮らしもまちも元気」プロジェクト

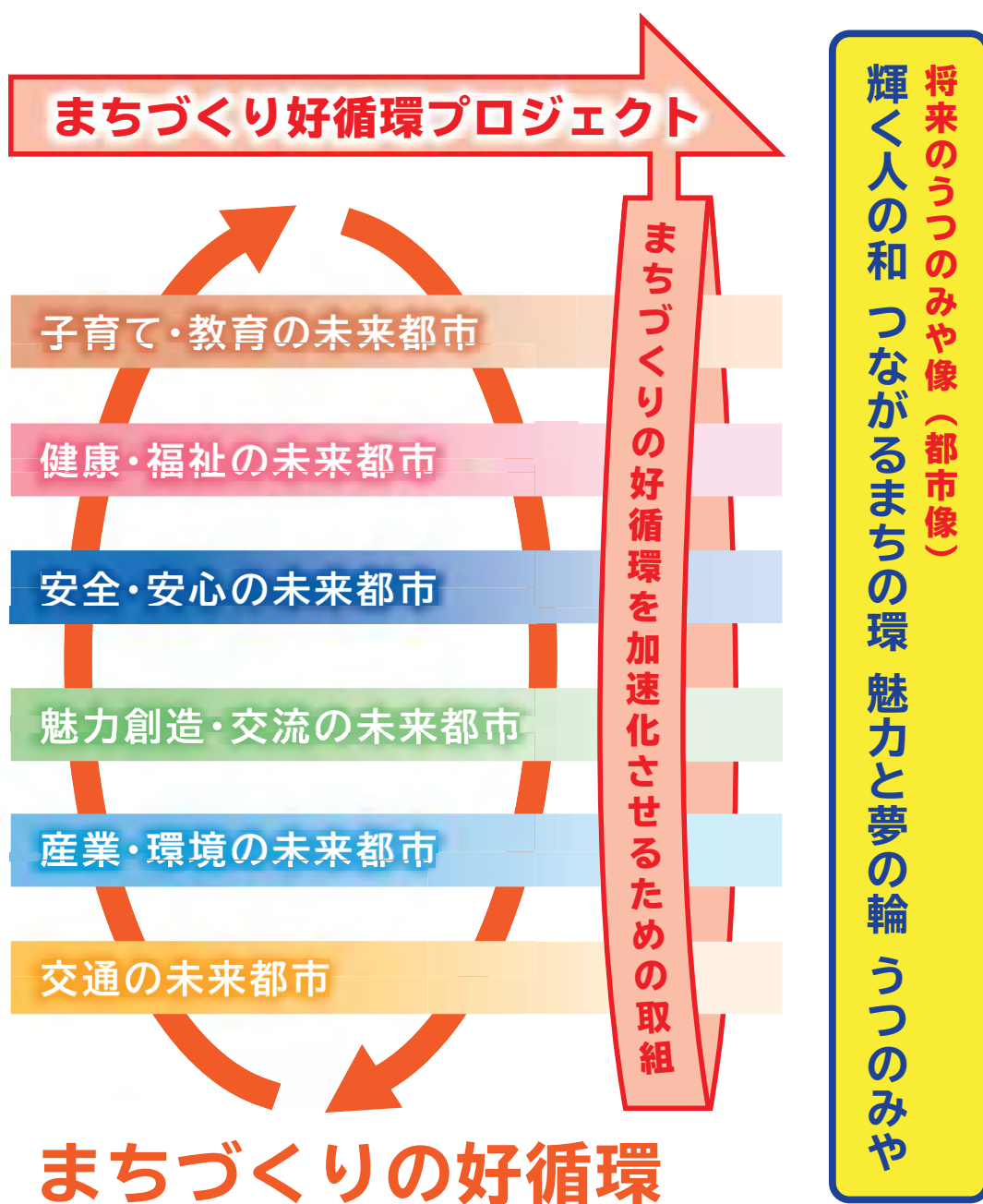
Project ③

魅力と夢の輪「ブランド発掘・創造・発信」プロジェクト

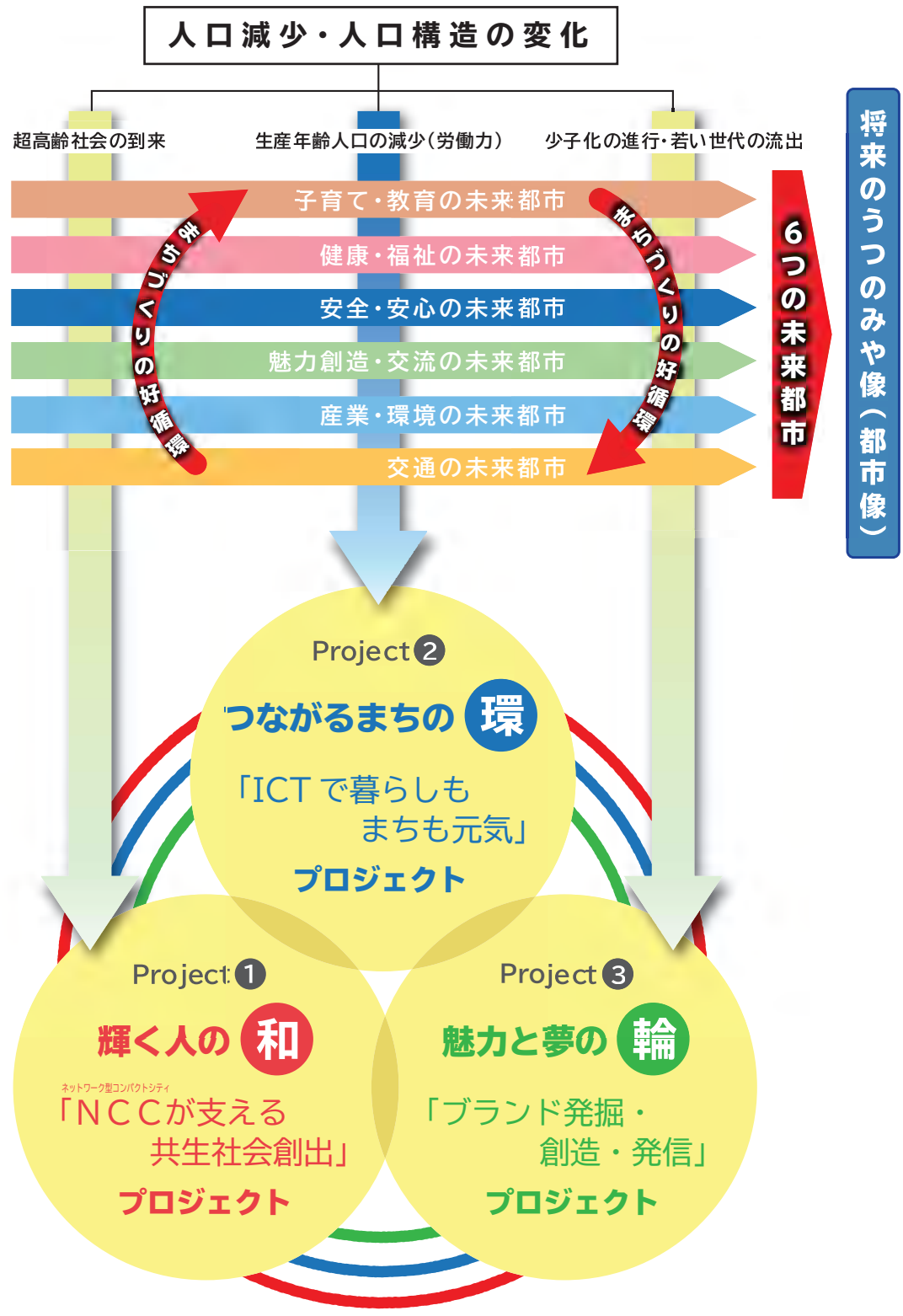
まちづくり好循環プロジェクト

まちづくり好循環プロジェクトの位置付け

第6次総合計画基本構想で定める「まちづくりの基本方向」における「まちづくりの好循環」の加速化を図ることで、「将来のうつつのみや像（都市像）」の実現を目指し、特に効果が高い先導的な取組や複数の分野の連携が不可欠な横断的な取組、他の分野への波及効果が高い取組などを「まちづくり好循環プロジェクト」としてまとめています。



それぞれの未来都市の構築を進める上で、共通の課題となる「人口減少・人口構造の変化」に対し、課題を分類し、それらに応じたプロジェクトを設定し、横断的に取り組みます。



まちづくり好循環プロジェクト

Project ①

ネットワーク型コンパクトシティ

輝く人の和 「NCCが支える共生社会創出」プロジェクト

ねらい	◎ 本市が目指す都市空間の姿「ネットワーク型コンパクトシティ」(NCC)の形成による都市構造の強みを生かし、少子・超高齢社会においても、高齢者・障がい者・子どもなど全ての人が暮らしやすく、生きがいを持った「地域共生社会」を創出する。
現状と取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2025(平成37)年には団塊の世代が後期高齢者となり、2050(平成62)年には第2次ベビーブーム世代が後期高齢者となる。 ・ 平均寿命の伸びや技術の進展により、担い手としての高齢者の活躍が期待される。 ⇒ 総合的な福祉サービスの提供に向けて、地域包括ケアシステムの深化を図る。 ・ 生活困窮者への対応、特に、子どもの貧困対策として、貧困の連鎖解消が必要である。 ⇒ 全ての子どもが夢と希望を持って成長していける社会の実現を図る。 ・ 立地適正化計画等に基づき、拠点への都市機能や居住の誘導に取り組んでいる。 ・ LRT整備と合わせたバス路線の再編や地域内交通の拡充、さらには、各公共交通間の乗り継ぎ利便性向上の検討を進めている。 ⇒ 生活利便機能の誘導や快適にアクセスできる移動環境を形成する。

「NCCが支える共生社会」の創出に向けて、対象者と目的を整理し、取り組むテーマを設定

取組テーマ

【地域包括ケアシステムの推進】

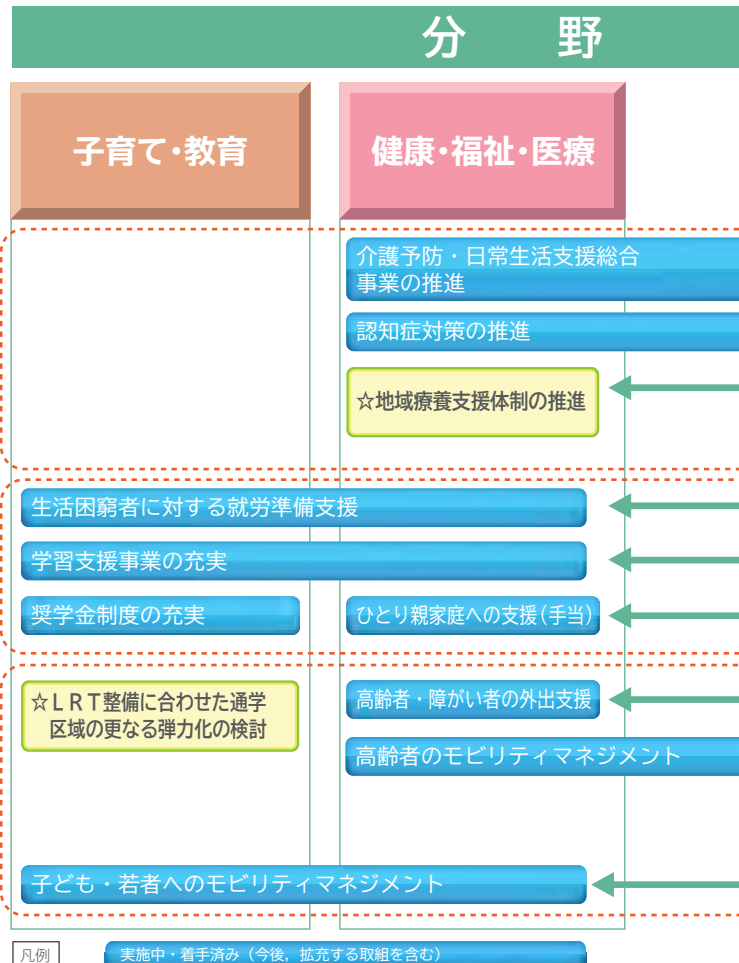
- ・ 今後、高齢者が一層増加することを見据え、介護保険サービスや認知症対策などの充実を図る。
- ・ また、地域における療養支援の体制の整備を進めながら、あわせて、拠点となる地域への都市機能の集積や居住の誘導を行う。

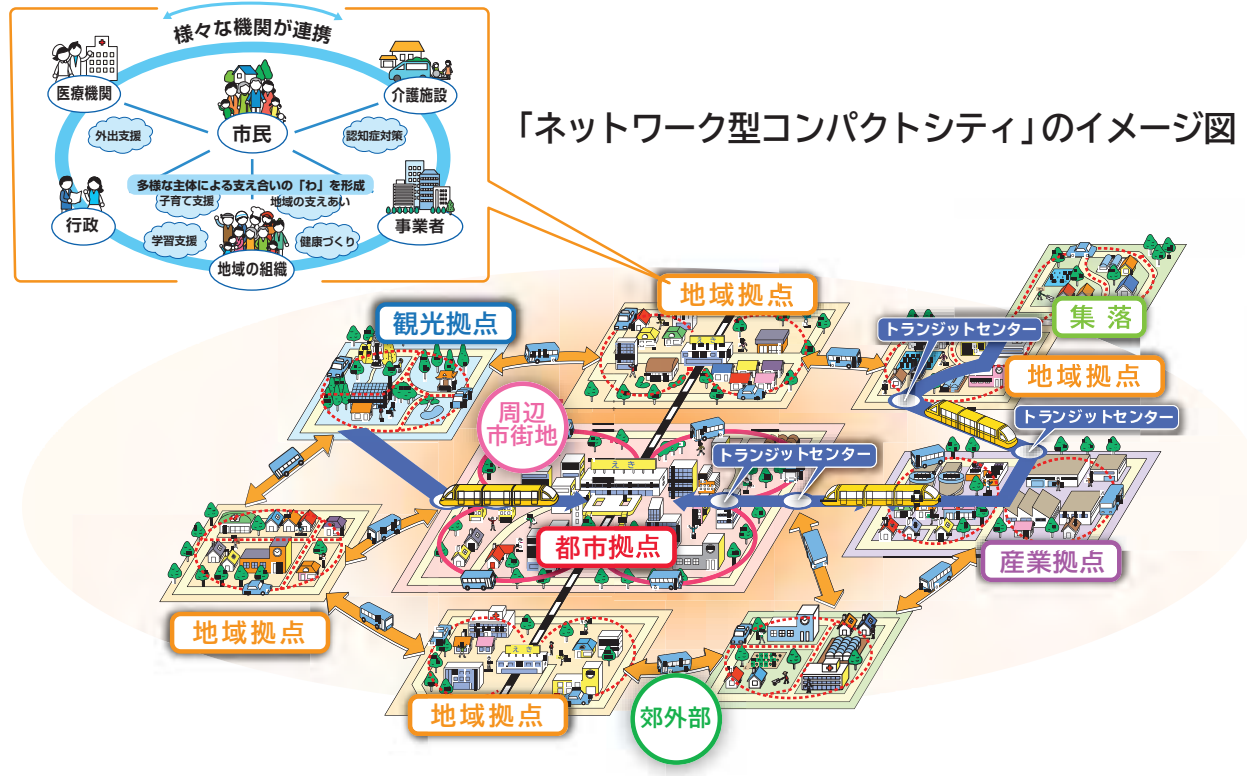
【子どもを守り育てる社会づくり】

- ・ 貧困に陥ることを防ぎながら、貧困の状態の解消を図る。
- ・ 貧困が世代を超えて連鎖しないよう学習や経済、就労に係る支援など多様な対策を講じる。

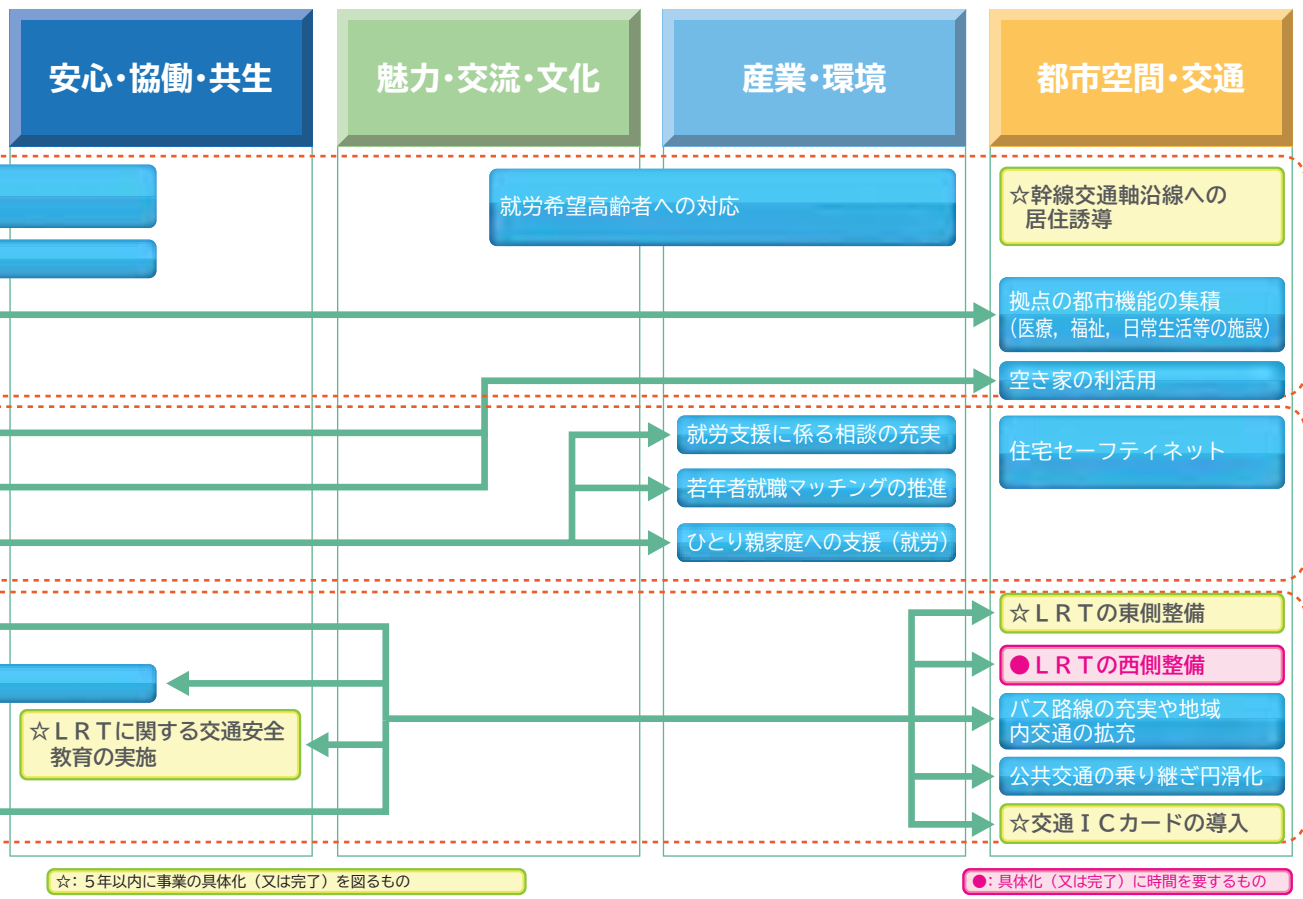
【誰もが安心して移動できる社会づくり】

- ・ 自家用車に頼らず生活できる都市の基盤を確立し、行きたいところに移動できるまちを目指す。
- ・ 高齢者や障がい者、子ども等の交通弱者に対し、外出支援や公共交通の利便性向上を図る。





別計画（政策分野）



まちづくり好循環プロジェクト

Project ②

つながるまちの環「ICTで暮らしもまちも元気」プロジェクト

ねらい

◎ 今後、生産年齢人口の減少下においても、ICT（情報通信技術）の恩恵を受ける環境を構築することで、AI*1, IoT*2, ドローン等の技術が人やモノの活動をサポートし、様々な分野における市民の身近な暮らしの利便性向上や活力あるまちの形成を図る。

現状と取組の方向性

- ・ AI, IoT等による生産性の向上が期待される。
- ・ 廉価で汎用性の高い新たな通信規格の出現により、IoTの普及しやすい環境が整えられつつある。
⇒ 劇的に進展しているICTの多方面での活用に向けて、ICT環境の構築を図る。
- ・ ドローンなどの新技術は実証実験を通じた社会への実装が進んでおり、多方面での活用が期待される。
- ・ AI技術の進展により、2020（平成32）年頃には、ロボットは熟練した動きが可能となり、自動車の自動運転が実用化される見込みである。
⇒ AI, ロボット, ドローン等の導入により、生活の利便性向上や産業の振興を図る。

ICTによるヒト・モノの活性化に向けて、段階と分野を整理し、取り組むテーマを設定

取組テーマ

【ICTの恩恵を享受できる環境の構築】

- ・ 市民生活や企業活動に大きな変化をもたらすICTを活用し、あらゆる分野において利便性・生産性を高めるため、IoT環境の構築などを促進する。

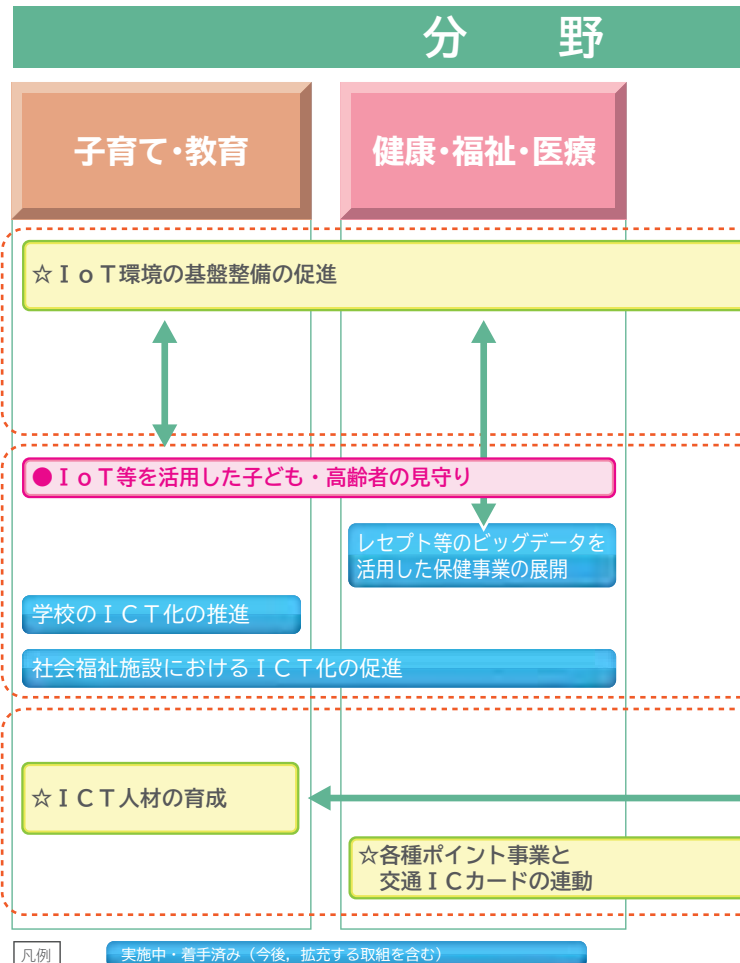
【市民の身近な生活の利便性向上】

- ・ 市民が安心して快適に暮らせるよう、ICTを活用した子どもや高齢者の見守り活動、道路・河川等の安全確認の実施など、安全で安心な環境づくりを行う。
- ・ AI, ロボット, ドローン等の導入により、担い手不足の解消を図る。

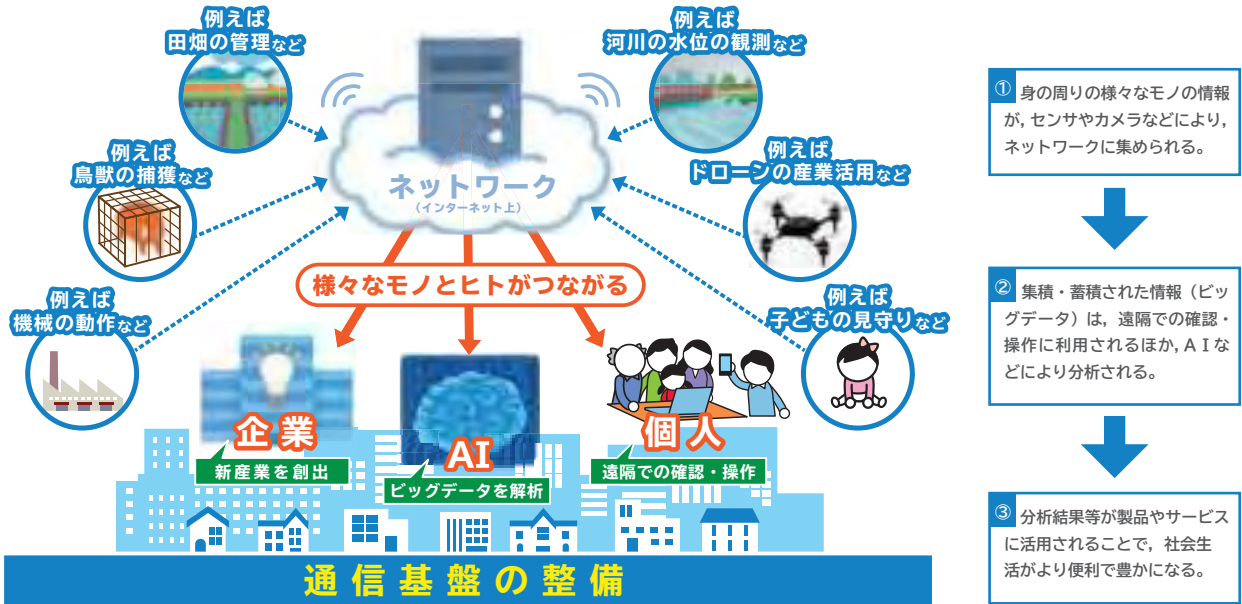
【新たなサービス創出を通じた産業の振興】

- ・ ICTの経済分野で活用を図るため、ICTを活用できる人材の育成を行う。
- ・ 先行して実施している農業をはじめ、中小企業の物流・製造業、小売・卸売、観光など様々な分野におけるICTの活用促進を図る。

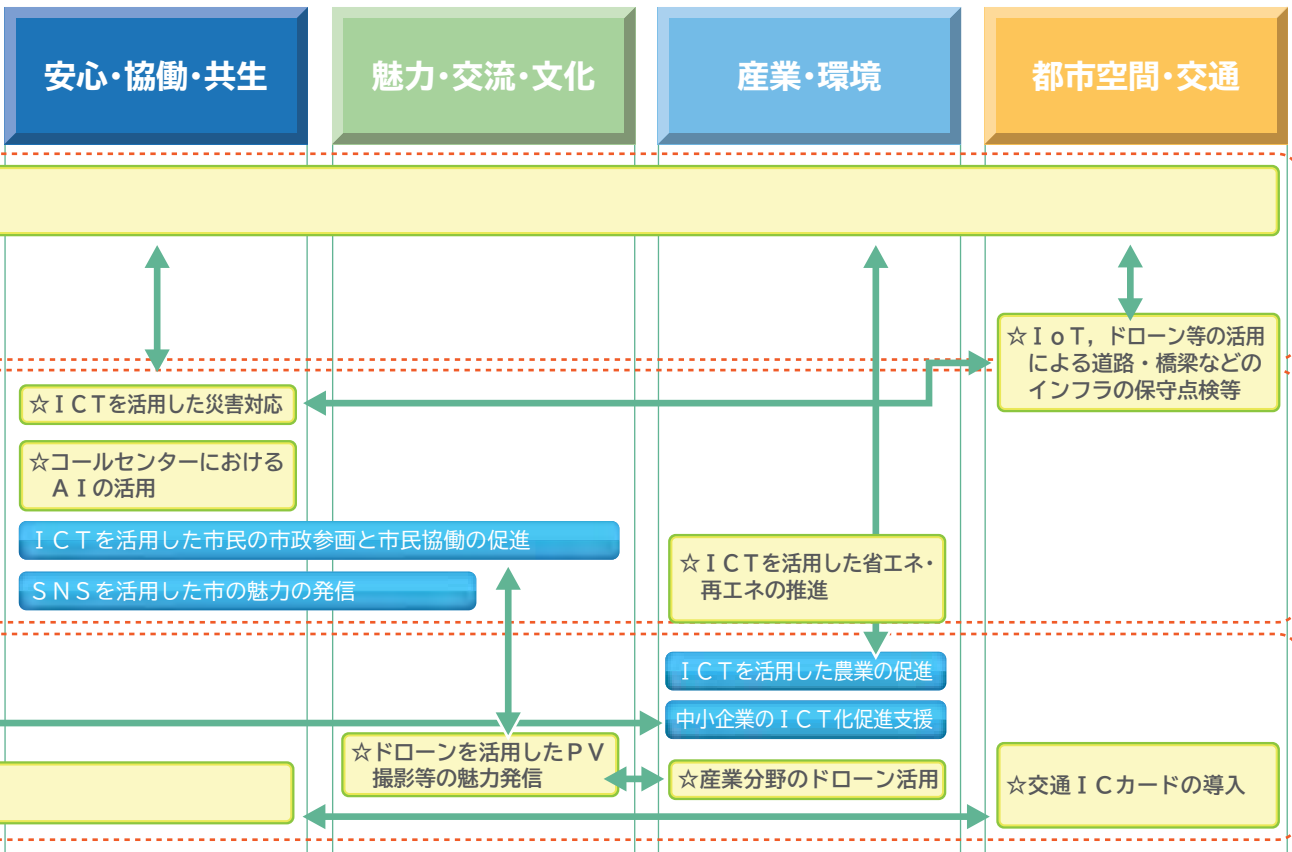
*1 AI: Artificial Intelligence の略。知的な機械、人間の知能をコンピュータソフトで実現させるもの。
*2 IoT: Internet of Things の略。通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信すること。



「ICTで暮らしもまちも元気」プロジェクトのイメージ図



別計画（政策分野）



☆: 5年以内に事業の具体化（又は完了）を図るもの

●: 具体化（又は完了）に時間を要するもの

まちづくり好循環プロジェクト

Project ③

魅力と夢の輪 「ブランド発掘・創造・発信」プロジェクト

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 少子化が進行する中、若い世代の流出を抑制するため、市民が誇りを持って住み続け、さらに、市外の人たちに対し積極的に本市の良さをPRし、本市が人や企業に選ばれるまちとなるよう、誰もが活躍できる社会を創出するとともに、都市の魅力度を磨き上げ、宇都宮ブランドの発掘・創造・発信を推進する。
現状と取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「大谷」を始めとする地域資源の更なる活用やジャパンカップサイクルロードレースなど、宇都宮市の強みを生かした取組が進められている。 ⇒ 地域資源等を最大限活用し、市内外に本市の魅力発信を行う。 ・ 東京圏に対し、人口は転出超過の状態にあり、特に若い世代の転出が目立っている。 ⇒ 東京圏への転出超過の対策として、UJIターンや移住・定住の取組を推進する。 ・ 20～49歳において男性より女性が10,000人程度少ない現状となっている。 ・ 20～30歳代の女性は今後10年以内に10,000人程度減少する見込みである。 ⇒ 女性も男性も活躍し、輝き続けることができる、魅力あるまちづくりに取り組む。

宇都宮ブランドの発掘・創造・発信に向けて、コンテンツを整理し、取り組むテーマを設定

取組テーマ

- 【「大谷」, 「LRT」, 「自転車のまち」など地域資源のフル活用】**
 - ・ これからも人や企業に選ばれるため、本市特有の地域資源である「大谷」や「LRT」などをフル活用したまちづくりを進める。
- 【宇都宮暮らしの魅力向上・発信による移住・定住の促進】**
 - ・ 本市が誇る「住まう」「働く」「育てる」「楽しむ」などの“住みよさ”を市内外に発信する。
 - ・ 特に、東京圏に対する若年層を中心とした転出超過の状況を踏まえ、東京圏から本市への戦略的な移住・定住の促進を図る。
- 【女性が活躍できる社会の構築】**
 - ・ 女性の活躍が進むことで、多様な価値観や創意工夫がもたらされ、より一層、本市が輝き続けることができるよう、女性が活躍できる社会の構築を目指す。



「ブランド発掘・創造・発信」プロジェクトのイメージ図



別 計 画 (政 策 分 野)

安心・協働・共生	魅力・交流・文化	産業・環境	都市空間・交通
	サイクルスポーツの振興		自転車利用環境の整備
	経済・観光分野における広域連携の推進		☆ LRTの東側整備
	大谷夏いちごの販路拡大		● LRTの西側整備
	大谷石産業の観光活用	大谷石採取場跡地の冷熱エネルギーの活用	大谷石を生かした景観形成
	☆大谷周遊拠点の創出	☆ LRT 沿線の産業振興	
外国人との交流拡大	インバウンド観光の推進	☆ LRT 沿線における低炭素化の促進	空き家の利活用
プロスポーツチームと連携した自治会への加入促進	☆LRTとスポーツ・文化施設等の地域資源を活用した新たなツーリズムの創出	UJIターンの促進	住宅取得の補助
災害に強いまちづくりの推進	●トランジットセンター等におけるまちなか情報の発信	農コン事業	若年夫婦・子育て世帯家賃補助
男女共同参画の推進	☆お試し居住の推進	☆女性が働きやすい環境の創出 (オフィス系企業の立地促進等)	
ワーク・ライフ・バランスへの支援			

☆: 5年以内に事業の具体化 (又は完了) を図るもの

●: 具体化 (又は完了) に時間を要するもの

第1章 基本計画の策定の目的 — (51)

第2章 計画の構成と期間 — (51)

第3章 計画のフレーム — (55)

第4章 都市空間形成の基本方針 — (69)

第5章 まちづくり好循環プロジェクト — (75)

第6章 分野別計画 — (85)

第7章 計画の着実な推進に向けて — (183)



第6章 分野別計画

1 未来都市の実現に向けた各政策の柱

I 子育て・教育・学習 分野

II 健康・福祉・医療 分野

III 安心・協働・共生 分野

IV 魅力・交流・文化 分野

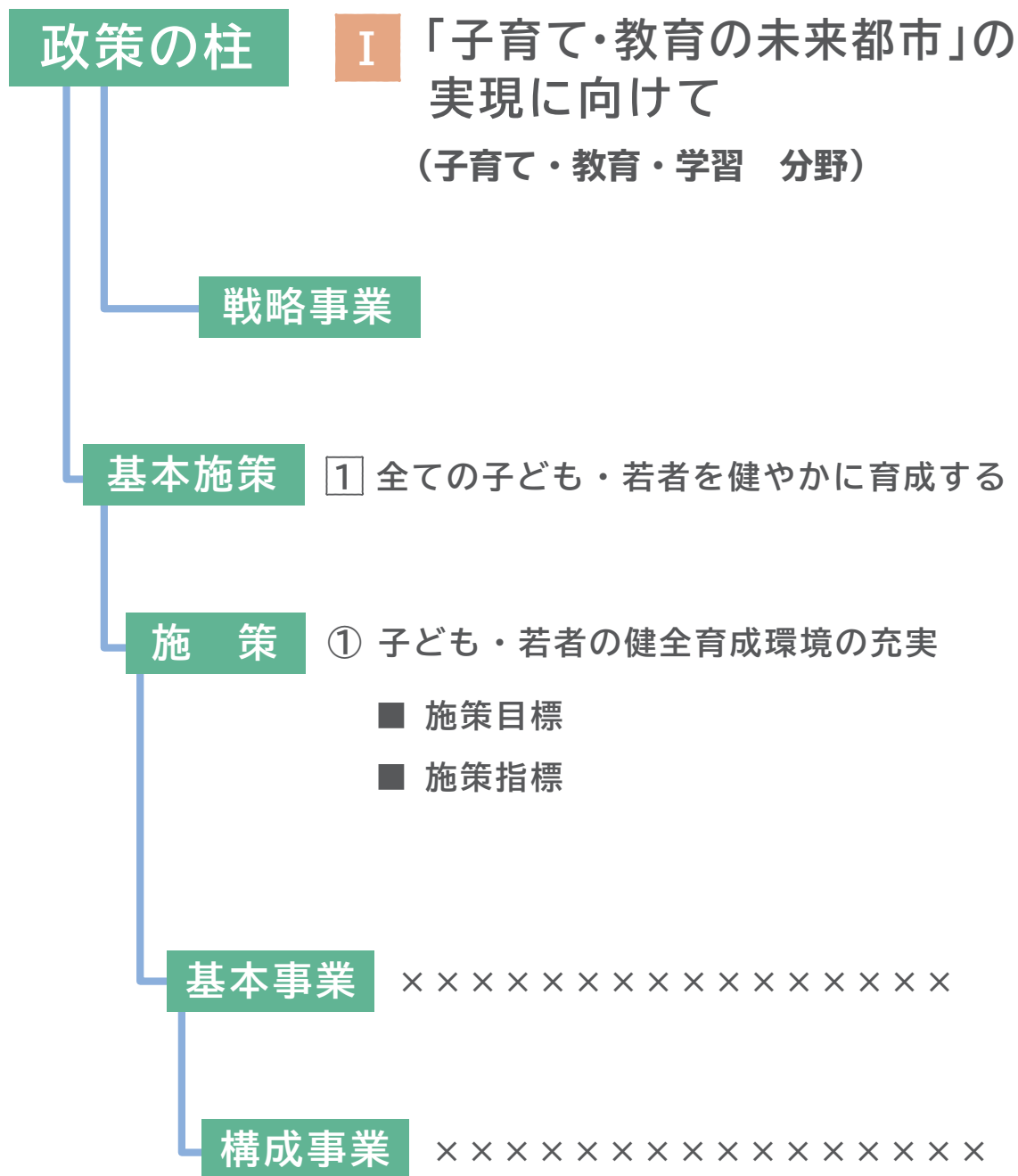
V 産業・環境 分野

VI 都市空間・交通 分野

2 各政策の柱を支える行政経営基盤

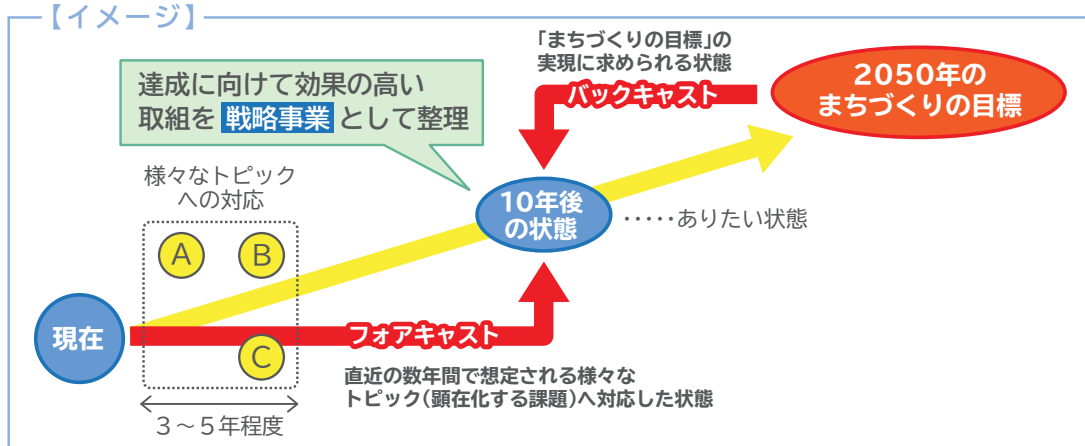
分野別計画

分野別計画体系（イメージ）



戦略事業

基本構想の6つの未来都市の実現に向けて、基本計画における政策の柱や政策分野をけん引する政策効果の高い取組。



施策の指標

◎ 施策の体系

① 子ども・若者の健全育成環境の充実

■ 施策目標
全ての子ども・若者が、自主的・主体的に活動でき、地域の中で心身ともに健やかに育つことができる環境が整っています。

■ 施策指標

出	青少年の総合相談件数	現状値 (H28)	983件	目標値 (H34)	1,800件
進	自立に向けて環境が改善された青年の割合	現状値 (H28)	22.31%	目標値 (H34)	30%

(1) 基本理念
主権在民

(1) 子ども・若者が自主的に活動できる環境づくりの推進
- 青少年の活動の場づくりの推進
- 青少年育成団体の活動支援の推進
- 青少年期における様々な体験学習の推進

(2) 子ども・若者の自立を支援する環境の充実
- 地域が主体となった青少年への支援体制の構築
- 1000人1000人、毎2名を1人増やす目標の実現

指標の分類	投入量 インプット	活動量 アクティビティ	産出物 アウトプット	直接成果 アウトカム	最終成果 アウトカム
考え方	費用・人員などの資源	行政活動	行政活動の結果、産出されたもの	行政活動が生み出す直接的な成果	目指す最終成果
			施策指標		基本施策指標

※ 基本計画で設定する指標については、前期期間の終了時点となる2022(平成34)年を目標年次に設定しており、前期計画の検証を踏まえて、2027(平成39)年の目標値を改めて設定する。